



バングラデシュ

BOP層実態調査レポート

バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh

基礎データ

面積	14万7,570平方キロメートル
人口	1億5,360万人(2012/13年度、出所：バングラデシュ中央銀行)
首都	ダッカ 人口1,188万人(2011年、統計局推定値)
実質GDP成長率	6.11(%)
名目GDP総額	185.42(10億ドル)
1人当たりの名目GDP	1,171.90(ドル)
為替レート	1ドル≒77.64 バングラデシュ タカ ※2014年平均値

出所：JETROホームページ 国・地域別に見る「アジア バングラデシュ概況(2016年6月更新)」

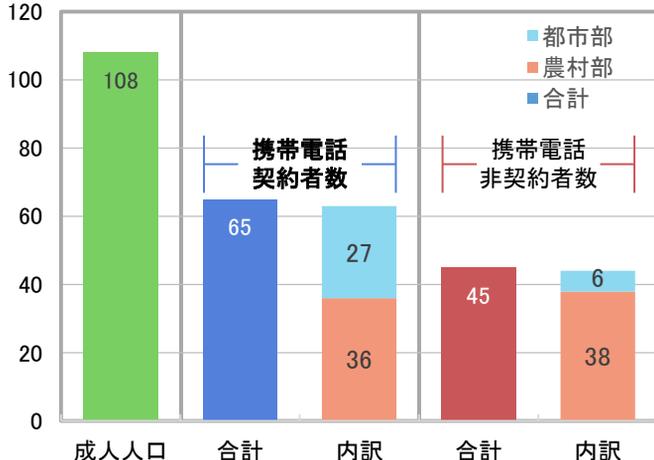
■ 調査月日	2015年 12月
■ 調査場所	ダッカ市

はじめに

携帯電話の普及と接続可能地域、接続速度は、日々目覚しく拡大、向上している。特に接続性において、バングラデシュは一歩先んじた国であり、人々は常に携帯電話を手にして頻りに画面をチェックし、複数の携帯を一緒に持ち歩く人も少なくない。低所得国に位置づけられているものの、15歳以下の若年層も含め人口の半数近くの人々が携帯電話に加入契約し、ネットワークのカバー範囲とピア間のやり取りは急速に拡大し続けている。バングラデシュは地域格差や貧困、電化率や識字率の低さ、子供の栄養失調等々多くの社会問題を抱えている。それら幾多の障害にもかかわらず、2014年には契約者数が全人口の40%に達し、2020年までには50%に及ぶと予測されるなど、携帯電話は期待を上回る普及を見せている。

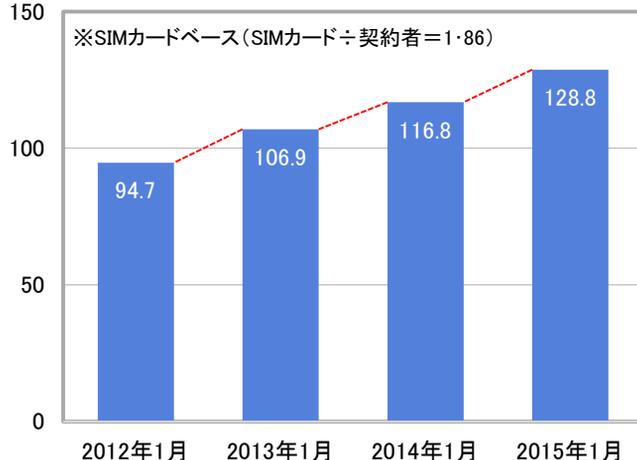
出所：GSMA Intelligence 2014年報告書

(100万人) 【バングラデシュの携帯電話契約者数(2014年)】



出所：IFPRI、GSMA Intelligen 等

(100万人) 【携帯電話契約者数の推移】



出所：バングラデシュ遠距離通信監督局

◆ 携帯電話市場概況

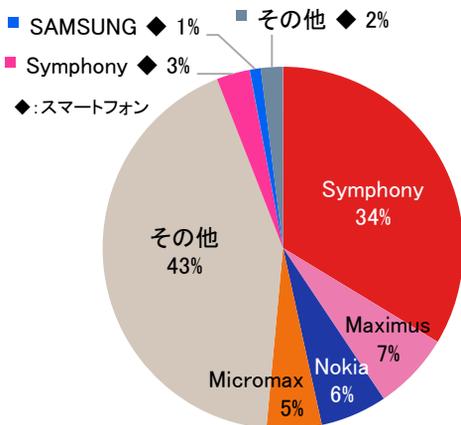
バングラデシュの携帯電話市場におけるスマートフォンが占める割合は、2013年前期に約6%（出荷ベース）で、昨今、急速に伸びているが、依然として中心を占めるのはフィーチャーフォンである。

携帯電話メーカーの最大手は国内企業の“Symphony Mobile”であり、フィーチャーフォン34%、スマートフォン3%の合わせて37%のシェアを持っている。

2010年までの10年間、“Nokia”がバングラデシュ携帯電話市場において50%を超えるシェアを持っていた。しかし2011年50%以下にシェアを落とし、2012年にはSymphonyがシェアを伸ばしNokiaを追い越した。

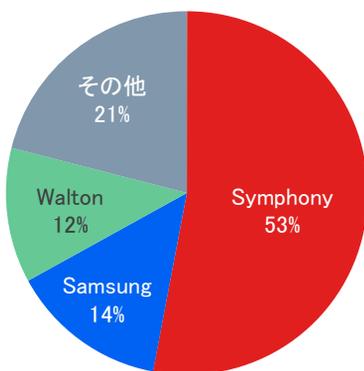
Symphonyは、国内で初めてデュアルSIMの携帯電話と標準型キーボードやトラックボールを生産・市販した企業であり、OSは国内で最もポピュラーなAndroidを採用している。このように、SymphonyはサムスンやNokiaに肩を並べる有力メーカーに成長したが、“Walton”も国内メーカーとしてSymphonyに次ぐ位置にあり、スマートフォン市場においては、サムスンと肩を並べつつある。

〔携帯電話各メーカーの市場シェア〕



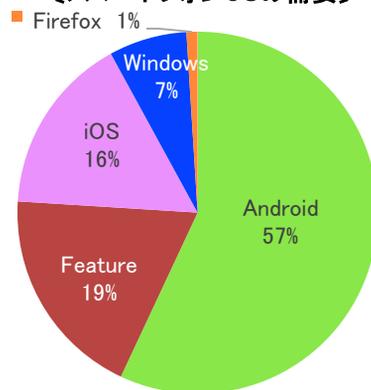
出所: GSMA(2014年)、CMR India

ダッカにおける
〔スマートフォンメーカーの需要〕



出所: Light Castle(2015年)*1

ダッカにおける
〔スマートフォンOSの需要〕



出所: Light Castle(2015年)*1

*1: Light Castle社がダッカ市内で年齢の異なる複数の携帯電話ユーザーに対し実施した調査結果。

◆ 携帯電話のアプリケーションソフト

携帯電話のアプリケーションソフトは、Apple App StoreやGoogle Playストア、Windows Phone Store、BlackBerry App Worldなどが2008年から国内で提供を始めた。携帯電話の普及につれてアプリケーションの売上げが伸びることもさることながら、それらのアプリケーションを通じ、これまで経験したことのない情報の世界が開けることから、アプリケーション市場はここ数年間で2倍の伸びを見せている。また、市場の拡大に伴い、国内や外資系のソフトウェアメーカーによる国内でのアプリケーション開発が始まっている。最近のトレンドとしては、UX（ユーザー体験）デザインに基づいたアプリケーションが挙げられる。



Googleのアプリ

バングラデシュでは、Androidに対応するアプリケーションが一般的であり、携帯電話やタブレット端末などで、ゲームをはじめ各種機能のアプリケーションとして使われている。科学情報通信技術省は、これまで約500種のAndroid対応アプリケーションを導入している。同省の情報通信技術局(ICT)によれば、このうち300種類が各産業の特定分野に特化した専用アプリであり、他の200種は革新的なアイデアに基づく汎用性のあるものとのことである。これらアプリケーションはGoogle Storeで購入でき、政府の開発したプラットフォームで利用できる。

出所: The Daily Ittefaq(2015年7月)



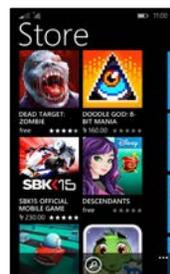
Google Storeで取り扱っている
アプリの一部 出所: NVSL

Windowsのアプリ

Windows Phoneは、ごく最近市販が始まったが、アプリケーションがWindowsのOSに連動しているということが利点である。すなわち、国内で使われているコンピュータの多くはWindowsのOSで動いており、国内のアプリケーション開発技術者は主にWindowsの機器を使用し、その操作に習熟しているため、今後Windows Phone用の魅力あるアプリが数多く開発されるものと思われる。

(右画像)Windows Phone用アプリ

出所: NVSL



国内で人気のアプリケーションソフト

数多くのアプリケーションの中でもFacebookをはじめとするソーシャル・ネットワーキング・サービスのアプリケーション利用者が多く、インターネット利用者の約80%がFacebookを利用しており(2015年5月 Daily Star紙)、その数は2008年の1万人から2015年には3,000万人に増加している(risingbd.com)。その背景には、元来、バングラデシュの人々のお喋り好きな性格にある。タブレット端末やスマートフォンが普及し、接続速度も向上したことから、いつでも常時繋がたままでお喋りできる場が与えられたことなどにより、利用が爆発的に増加したと思われる。

【主な人気アプリケーションソフト】

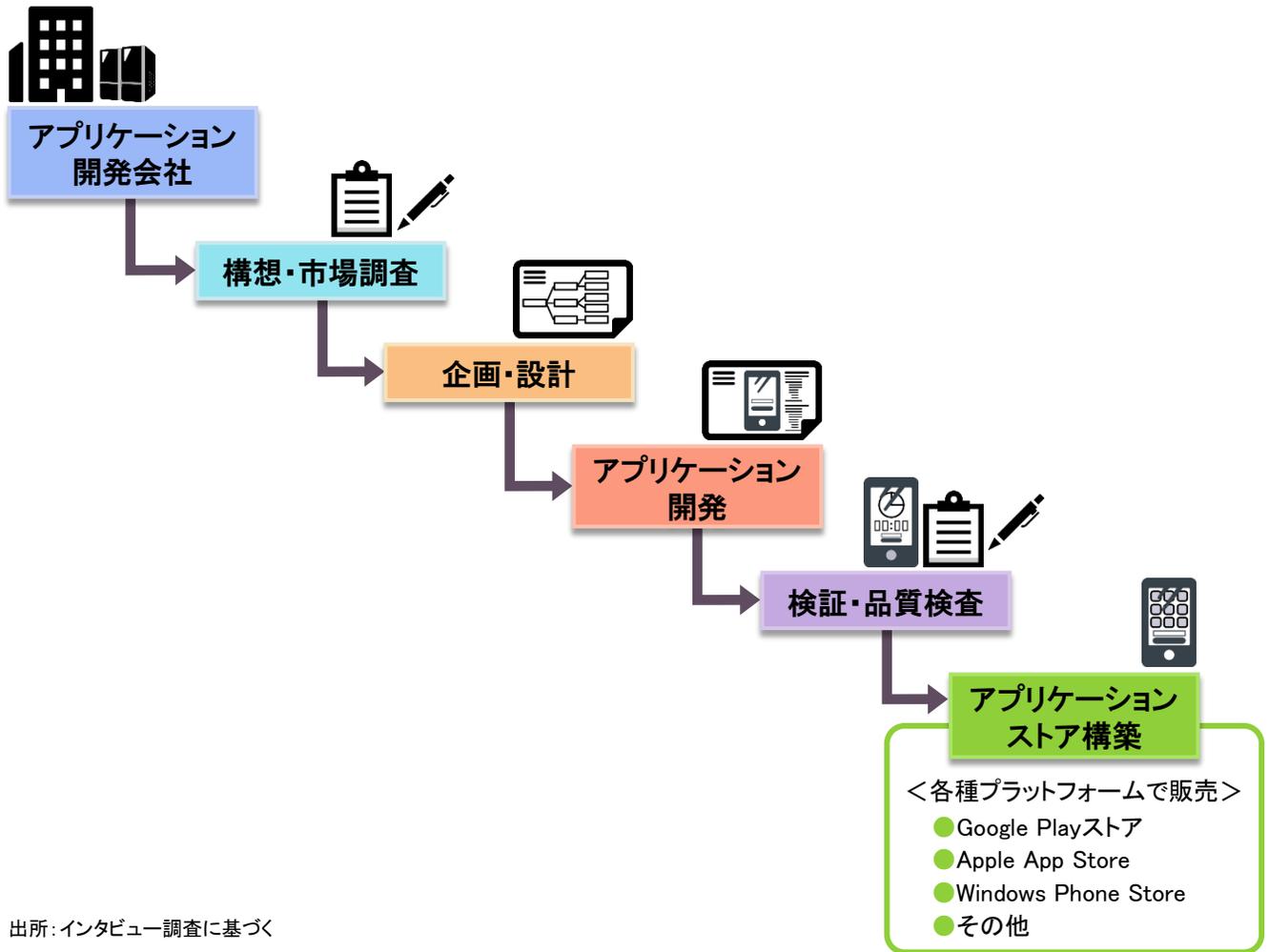
SNS系	eコマース	メディア視聴	ゲーム	その他
Facebook	Ekhanei.com	Bangla Newspaper – Prothom Alo	Fruit Shoot	Chrome Browser
Facebook Messenger	Bikroy.com	Bangla All Newspaper	Subway Surfers	Dropbox(ファイル保管)
imo	OLX.com	Banglanews24.com	CLASH of CLANS	Linkedin(ビジネス用SNS)
WhatsApp	DARAZ Shopping	Bd24live	Talking Tom	Clean Master
Viber				Battery Doctor
skype				Dictionaries etc 等
Gmail				

出所: Hexon technologies 等

人気アプリケーションソフトの条件

携帯電話アプリケーションの開発業者によれば、ゲームや辞書などは、一旦ダウンロードしたらオフラインで使用できるものが好まれ、記憶容量が大幅に必要、あるいはサインインする際、名前やEメール・アドレスを入力する必要があるアプリケーションは敬遠されるとのことである。

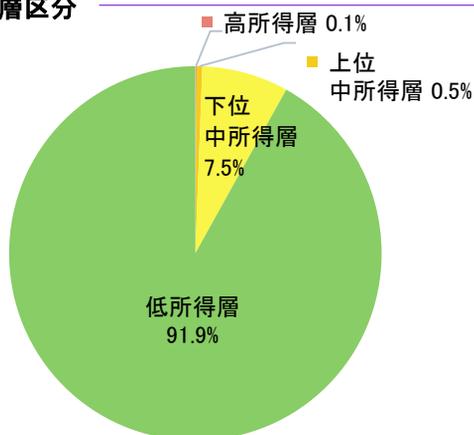
- 親しい人々の間で広がる影響力がある
- 斬新である
- GoogleやFacebook等で広告を行っている
- 使いやすい
- 低容量(4~6MB以下が好まれる)
- 無料でダウンロードできること
- 人気があり広く使われていること



市場参入にあたっての留意点

- バングラデシュでは、世界の有名アプリケーションがまだまだ十分に紹介されていない。従って、医療や教育、ゲームその他の最新のアプリケーションが参入する余地は大きい。
- スマートフォンは徐々に普及はしているが、エリクソン社の関係者によれば、2015年6月時点で携帯電話市場の12～15%を占めるにとどまっており、今後5年間、携帯電話会社の中心的注力分野となっている。
- バングラデシュの携帯電話市場は、2014年7～9月の期間だけを見ても新たに200万人が新規加入しているなど急速に拡大しており(エリクソン社調査)、今後とも発展の可能性が高い。
- ダッカ市内は、ICT国際競争力指標から見てもICTの環境が整っており、さらに向上するものと見られる。
- ダッカ市以外においてもITの接続性が向上しつつある。ベンガル湾北岸の港町バリサル(バリサル県)とシレット市は接続環境が良く、チッタゴン市がそれに次いでいるが、ラジシャヒ市とランプル市などは遅れている。

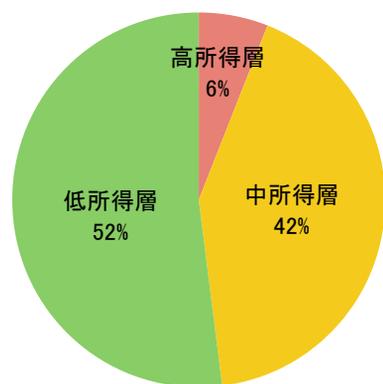
■ 所得層区分



出所: 通商白書より引用した所得区分

所得層区分	年収
高所得層	35,000ドル以上
上位 中所得層	15,000ドル以上～35,000ドル以下
下位 低所得層	5,000ドル以上～15,000ドル以下
低所得層	5,000ドル未満

■ バングラデシュ政府(統計局)による所得層区分



出所: バングラデシュ統計局 2010年 “Household Income and Expenditure Survey(HIES)”

所得層区分	月収
高所得層	40,000タカ以上
中所得層	10,000以上～40,000タカ以下
低所得層	10,000タカ未満